



静岡大学工学部
海外研究室交流プログラム (SSSV)
2016年度成果報告

機械工学科 小林研究室

交流先大学

ドイツ ミュンヘン工科大学
Technische Universität München



Prof. Dirk Wollherr & Lab member

研究分野

人間との共同作業を想定するヒューマノイドや
物体認知, モバイルロボットのナビゲーション

スケジュール

- 11/21: ミュンヘン到着 ホテルへ移動
- 11/22: 研究発表, TUMの学生とビアガーデンで交流
- 11/23: TUM見学, 研究に関して議論
- 11/24: オープンキャンパス
- 11/25: ノイシュバンシュタイン城
- 11/26: 市内の各所観光
- 11/27: ミュンヘン市内(ニンフェンベルク城他 観光名所)
- 11/28: ミュンヘン空港から日本へ出発

DAY2 研究発表



- TUMの学生と交互に研究発表
- 英語での質疑応答はまだ難しく、もどかしさを感じた

DAY2 ビアガーデンでの交流パー



- ウェイターはドイツの民族衣装(ディアンドル)着用
- 地元の学生に勧められ人気の伝統料理とビールを頼む

DAY3 TUM見学

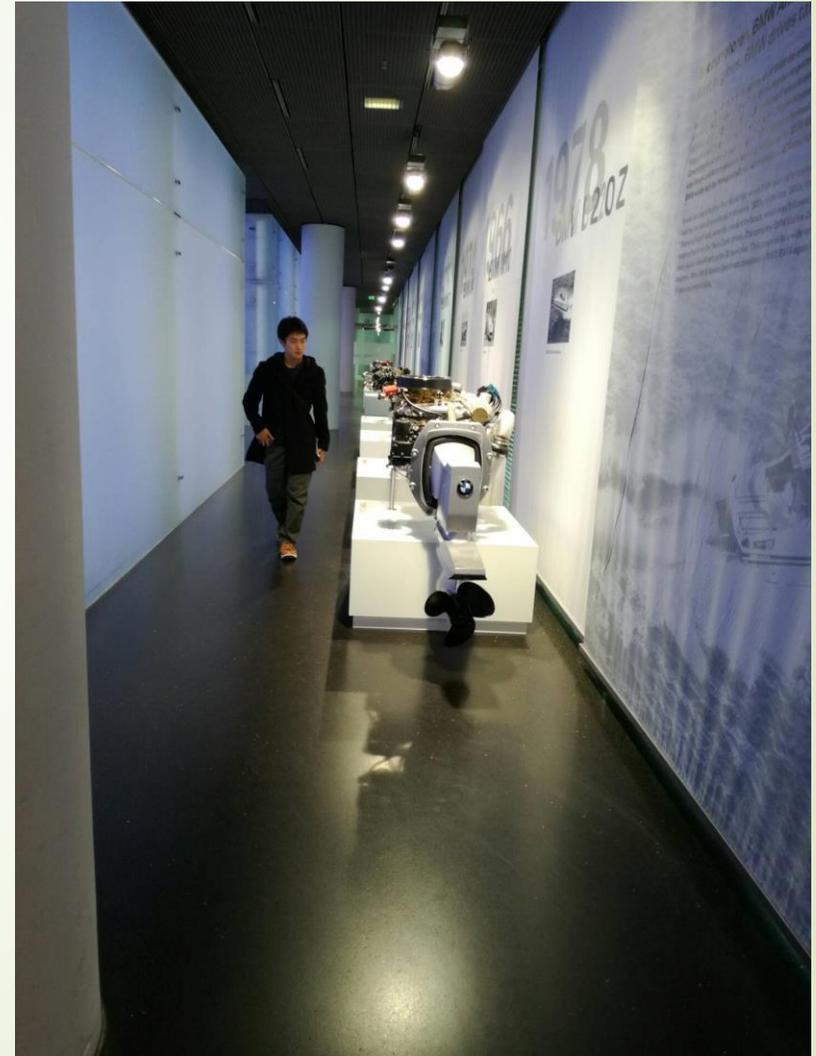


- ・ヒューマノイドロボットやアーム型ロボットなど研究分野は似ていても全く違うアプローチ部分もあり非常に参考になった

DAY3 BMW博物



昔の製品から最新の製品までが勢揃いしていて
BMWやドイツの工業の歴史を肌で感じられた



DAY4 オープンキャンパス見学



- ちょうど開かれていたTUMのオープンキャンパスに参加一般の市民も数多く訪れていた

DAY5 ノイシュバンシュタイン城



- 現地のおばあさんに集合写真を依頼
- 自分たちと同じような観光客で溢れていた



DAY6 アリアンツ・アリーナ



- ・ 最大収容人数75000人の超巨大サッカースタジアム
- ・ ちょうど試合日で，朝早くの来訪だったがサポーターの姿も見えた

DAY7 ドイツ博物館



- ・産業や科学全般に関する資料が盛り沢山
一日ではとても回りきれなかった



DAY7 ニンフェンベルク城周辺

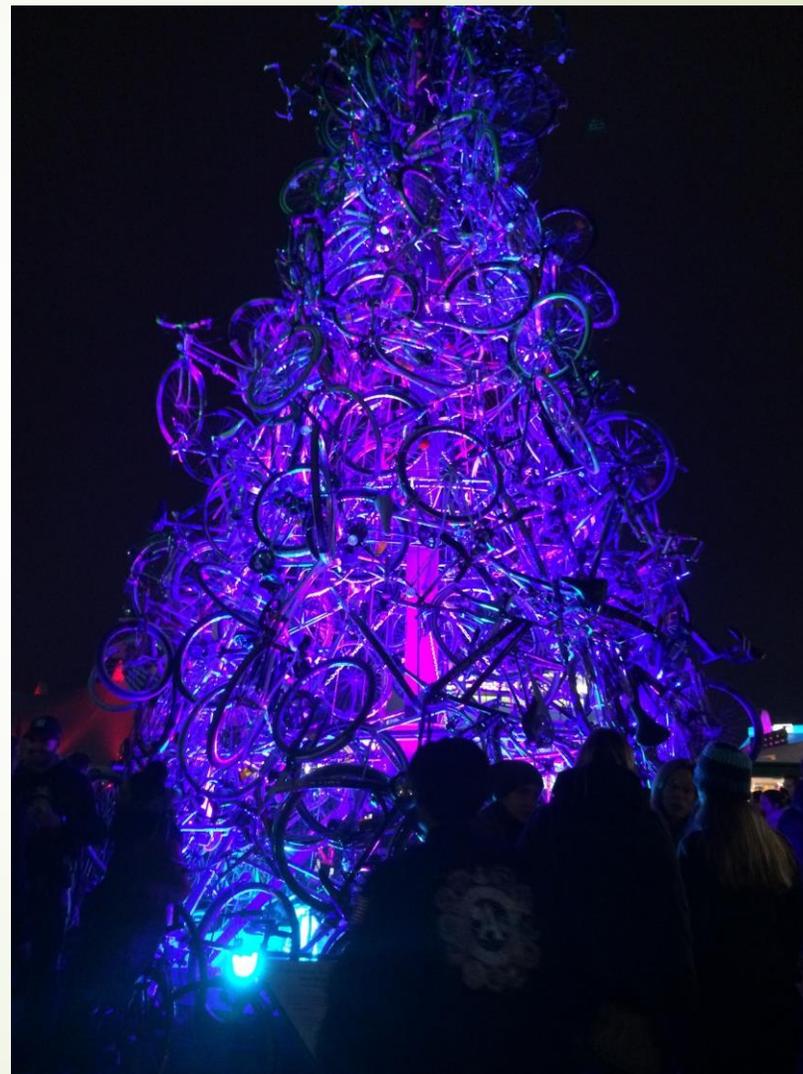


- ミュンヘン市内にあるニンフェンベルク城
近くにも様々歴史的建造物が残っている

クリスマスマーケット



- ・ 11月下旬からドイツ全域でクリスマスマーケットが開催されている



感想 研究発表について

- 今回はオーラル発表だったが、自分たちの英語能力では短い質疑応答で完璧な受け答えが出来ず、もどかしい思いをした
- 分野としては似た研究が多かったので英語でもある程度は理解できたものの、こちらから質問ことまではできなかった
- 後の交流の際に研究についての議論はゆっくり意思疎通を行えばある程度出来たが、やはり短時間で簡潔な受け答えをする難しさを実感した

感想 ドイツの風習・文化について

- ドイツはヨーロッパでも英語の普及率が非常に高く (EF EPI 9位) どこでも英語が通じるというのが特にありがたかった。
- レストランでのチップ文化など、知識不足で現地の人に迷惑をかけてしまったこともあり、異文化への理解を深める必要性を感じた
- 公共交通機関が発達しており、市内の移動は非常に楽だった
日本のような改札が存在しなかったのは驚き
- 町並みの外観も日本と全く違い、石製の建物の多さはまさにヨーロッパという風情があった

感想 SSSVについて

- ・ 交流先のTUMでは博士課程の人が非常に多く、その博士がマンツーマンで修士を指導するなど指導体制が非常に整っていると感じた
- ・ 英語能力については渡航前から不安だったが、町中や駅などでは英語を使って意思疎通をこなすことが出来、その面では自信になった。しかし、大学での研究発表で専門的な議論を行うまだまだ能力不足だとも実感した。
自分たちの研究室でも、ゼミを英語で行う機会などを増やし、そういった詳しい議論をこなせるような能力を身に付けていきたい
- ・ たと言葉が完全に通じなくとも、コミュニケーションを取ろうとする姿勢があれば話は聞いてくれる。
そういった面での能力も海外では大切だと思った